



タンチョウ博士のお話（第27回）

○今年“も”タンチョウは子育て中！

今年“も”タンチョウが舞鶴遊水地で子育て中です。でも、“も”のところが気になりませんか？なぜ“も”のところだけ強調されているのでしょうか？

タンチョウは、生まれてから3年経つと“おとな”、つまり成鳥になり、子育てができるようになります。しかし、成鳥になってすぐに結婚し、子育てを始めるとは限りません。いくつで結婚し、いつ子どもを育て始めるかは個体によりさまざま、この点はヒトと同じです。

ヒトでは、初婚年齢の平均は男性30歳、女性29歳というのが最近の傾向です。ところが、同じことをタンチョウで調べようとすると、厄介な問題が出てきます。

ヒトの場合、そのヒトがいつ、どこで生まれたかは戸籍簿にしっかり記録されます。ですから、今これを読んでいるあなたが、どこ生まれの何歳か、あなた自身はもちろん、身近なヒトたちも知っています。

しかし、いま北海道にいるタンチョウで、生まれた年と場所がだいたい分かるのは1割ほどで、残りの9割弱は年齢不詳、出身地不明の鳥たちです。それでも、1割ほどわかるのは、まだ飛べないうちに、生まれた場所で名札（番号入りの足環）をつけたからです。これはまさしく、タンチョウのマイナンバーカード（札ではないのでマイナンバーリング）です。

そこで、リングのついたタンチョウを調べたところ、半数近くが3歳で、全体の3分の1ほどが4歳で結婚していて、性別による違いはありませんでした。また、中には、6歳になってやっと結婚できた“モテない”(?)オスもいました。

それでは、初めての子はいつ生まれるのでしょうか。マイナンバー持ちのタンチョウ103羽を調べた結果が下の図です。生まれた年の最初の冬まで子どもを育てたタンチョウは、3歳ではわずか4羽でした。最も多いのが、5歳の18羽で、あとはだんだん少なくなり、21歳の初老(?)になってやっと子宝に恵まれたオスもいます。また、リング付のタンチョウ全体では、4分の1ほどが子を残さずに天国へ旅立っていました。

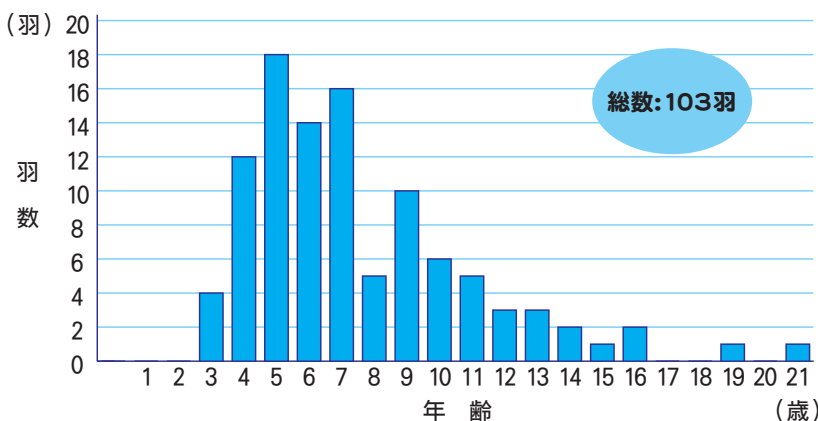


図 初めて子育てに成功した時の年齢とその羽数

ところで、結局、表題の“も”は何だったのかというと、舞鶴遊水地のタンチョウは、ヒトが造った湿地での繁殖という“偉業”に加え、昨年3歳になってすぐ子育てに成功し、しかも、続けて今年“も”です。いわば、上に述べた数々の狭き門をくぐり抜けてのことであり、私は、表題の“も”の中に、心からの拍手を込めたつもりです。ご賛同いただけますでしょうか？（文：正富宏之）

【問合せ先】 役場企画政策係（☎ 76-8015）